

【コラム】「岩名天神前遺跡」の名の由来は？

巖 由美

(シンポジウム実行委員)

「岩名天神前遺跡」の名称は、1985年に『千葉県埋蔵分布地図』（千葉県文化財センター）に大字小字名による遺跡名として記載されましたが、それ以前は、「岩名八幡前遺跡」（1939）、「内郷岩名遺跡」（1961）、「天神前遺跡」（1964）、「天神前貝塚」（1983）など、さまざまな名称だったようです。

「千葉県天神前遺跡における晩期縄文土器」（1964 杉原・戸沢・大塚・小林）では、「天神前遺跡は、千葉県佐倉市岩名にあり、俗称天神前とよばれる標高約30米余の低い丘陵に存在する」「遺跡地点は京成佐倉駅の北方、岩名部落への道を2.5軒の距離にあり、村社天神宮の東側一帯である」と書かれています。この俗称「天神前」とは小字名であり、その由来は「村社天神宮」による地名と早合点しそうですが、「村社天神宮」は、旧岩名村鎮守の麻賀多神社（江戸期の絵図では「山ノ崎麻賀多神社」）の間違ひではないかと思われまふ。

「天神前」の小字名の由来については、佐倉地名研究会の『多輪免喜』に「この地に天神様があつたので、この辺一帯をこうよんでいる」、また隣接する「宮前」については「八幡様、麻賀多神社を宮とよび、付近一帯の地名」と書かれています。古地図などで天神社を確認することはできませんでした。

他に手掛かりはないかと探していたところ、房総石造文化財研究会の田中征志氏から「岩名麻賀多神社の脇に梅鉢紋の手水石を見つけた」との連絡をいただきました。さっそく今年1月現地へ赴くと、麻賀多神社参道から右へ少し入った所の、疱瘡神や道祖神の石祠群の先に小さな手水石があり、その正面に天神の神紋である梅鉢紋を、また左面に「服部五良兵衛」、右面に「文化七（1804）庚午 六月吉日」の銘を確認することができました。

二百年前の文化7年、小字名の由来となった天神社があつたことは確認できましたが、その場所はわかりません。麻賀多神社に隣接してあつたのか、また明治初頭の迅速測図で見ると、麻賀多神社から北東へ小字天神前の台地を貫いて飯田村へ抜ける古道があり、その道沿いのどこかに天神社があつて、その名残の手水石だけが麻賀多神社境内に移されたのか、その謎はつきません。

